在宅時も医療とつながる新しい診療体験

ITの力で患者さんの不安を払拭し、治療満足度に貢献

医療法人ミチテラス ファミリークリニックあざみ野　石井 道人 先生

近年急速に拡大しているDigital Therapeutics（DTx）領域の中で、先行して保険適用となり処方が始まっている高血圧の治療用アプリ、CureApp HT 高血圧治療補助アプリ（以下、CureApp HT）。
LINE公式アカウントや、院内サイネージなどを活用しながら高血圧患者さん*に対してCureApp HTの導入を進めている「ファミリークリニックあざみ野」の石井先生に、導入のきっかけや処方の流れについてお話を伺いました。

*CureApp HTの使用目的又は効果は、成人の本態性高血圧症の治療補助

患者さんが医療とつながる時間を増やすことで、不安を減らしてあげたい

医師が患者さんを診察している時間はほんの少しの時間でしかありません。つまり、患者さんが医療とつながっていない時間が何十時間にもおよぶということになります。治療中の患者さんが日常生活において不安を抱いたとき、私たちはすぐに解決に導くことができません。そこをITの力で解決することで患者さんの満足度向上にも貢献できる、と以前から考えていました。
CureApp HTのことを知り、これを使えば高血圧患者さんの日常生活における不安などを減らしてあげられるのではないか、と思い当院に導入することを決めました。

院内サイネージ、LINEなど複数のアプローチでスマート降圧療法を患者さんに認識してもらう

当院ではスマート降圧療法について、院内サイネージでの動画再生や、LINE公式アカウントからのメッセージ配信、待合室へのパンフレット設置など、複数のアプローチを利用して患者さんに認識してもらうようにしています。
単純接触効果*1のおかげで、患者さんが興味を持ったタイミングで声をかけてくださるケースもあります。また、私たちから紹介した時にもすでに患者さんはスマート降圧療法について目にしていただいているので、治療の始め方や費用の説明をするだけでスムーズに導入に至ることも多いです。

*1 元々興味がなかった物事や人物に対して、複数回接触を繰り返すことで、興味を持つようになる心理的現象

患者さんが“今の治療を変えたい”シグナルを出した時がCureApp HTをすすめるタイミング

患者さんが、最近血圧が上がってきているのを気にされている様子や、薬を減らしたいと思っているそぶりがあったタイミングでCureApp HTをすすめています。薬を使わずに降圧が期待できることに興味を持つ患者さんは多いですね。
また、それ以外でも毎回きちんと家庭血圧を記録しているような方や、薬が必要かどうか悩むくらいの血圧値の方はCureApp HTが向いていると感じています。
高齢者の方でもスマホを持っていて、日常的にLINEを使えている人であれば問題なく処方できています。

薬物療法と比較しても、決して劣るものではないと患者さんに伝えている

患者さんに説明する際は「スマート降圧療法」というものが最近新しく出てきていること、薬物療法と比較しても、決して劣るものではないことをCureAppが提供している資材を用いて伝えています。
私がCureApp HTの説明にかける時間は1～2分くらいで、詳細については別室で看護師から話をしてもらっており、効率よく診療を行えています。CureApp HTを始めてから「減塩するだけでこんなに血圧が下がるんですね」という話をよく聞きます。患者さんの塩分に対する意識の変化を実感していますね。患者さんが日頃の行動内容等を記録する「振り返り*2」を医師側で確認することで「先生もちゃんと見てくれているんだ」と患者さんの生活習慣修正のモチベーションにつながっていると思います。

*2 1日の振り返り、医師との約束実施状況についての記録

お話をうかがったのは

石井 道人（いしい・みちと）先生

医療法人ミチテラス ファミリークリニックあざみ野 院長

2007年北里大学医学部卒業、2007～2013年東京都立多摩総合医療センターにて研修後ER専従、2013～2016年北海道喜茂別町で僻地・家庭医療に従事、2016年～都内小児科クリニック勤務、2020年～ファミリークリニックあざみ野

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医
日本救急医学会認定救急科専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本医師会認定認知症サポート医
キッズガーデンプレップスクール嘱託医